

帰国生入試「国語」サンプル問題

次の文章は、「(いま子どもたちは) いまどきの帰国生1 変わった人? ありだね」という新聞記事の一部です。この文章を読んで後の問いに答えなさい。

「停電や断水には慣れっこでも、受験勉強には適応できなくて」と笑うのは、山本健登くん(17)。ICU高校に入るまで海外生活だった。メキシコ生まれ。4〜8歳はオーストリアの日本人学校に、その後はホンジュラスのインターナショナルスクールに通った。日英スペインの3カ国語を操る――が、「どれも微妙な感じ」と話す。

夢は途上国の貧困問題に携わること。でも、「希望の大学進学は厳しそう。得意な製菓やゴルフの道も考えています」。

西村梨花子さん(17)は「日本語より英語が得意」。米英両国で8年間、現地の学校に通った。高校進学時に「日本の学校と生活を知る最後のチャンス」と単身帰国。試験の多くが記述式だった英国と違い、日本は穴埋めが多い。「最初は点数が取れなかった」と振り返る。

高校卒業後は欧州の芸術大学に進みたいという。「国や人種に関係なく、人と人をつなげられる音楽の道を究めたい」

小菌冴子さん(17)は、5歳から中学3年まで、英国とドイツで現地校やインターナショナルスクールを転々とした。「転校が多かったので、周りから浮かないように控えめにふるまってきた」という。入学から卒業まで、一つの学校に在籍するのはICU高校が初めて。今度は最初から、本当はおしゃべりな自分を出そうと決めていた。「今は『うるさい人』と言われていきます」と笑う。

シンガポール育ちの木川優月さん(17)は「この学校は個性豊かな人が多いけど、変わった人だから嫌ではなく、それもありがたねと受け入れる。そこが一番いいところ」と話した。(前田育穂)

■海外で過ごす子、昨年7万6千人 1980年の2・8倍

親の転勤などで、義務教育を受ける時期を海外で過ごす子どもは増えている。外務省によると、1980年の約2万7千人から、2014年は約7万6千人と約2・8倍に。地域別では05年、それまで最多だった北米をアジアが抜いた。現在はアジア42%、北米32%、欧州19%。駐在地域によって、通う学校も異なる。

現地の学校やインターナショナルスクールに通う場合、日常会話の習得に2年、学年相当の授業を理解するには4〜7年程度かかるとされる。

日本に帰国する小中学生は年1万人前後で推移している。日本国内における帰国生への評価も、時代とともに変わっている。1970年ごろまでは「日本の教育を受けられず、救済が必要な存在」。だが、日本企業がどんどん海外進出をするようになり、80年代からは「時代を先取りし、学校を活性化する存在」として期待されるようになっていった。帰国生を受け入れる学校も増え始めた。

ただ、「教育の中で『同質』を求める傾向は変わっていない」という指摘もある。海外赴任者の教育相談に応じる海外子女教育振興財団(東京都)の植野美穂さんは「海外で育つ子どもは多様性を尊重する感覚を身につけて帰国する。日本の学校は、語学力だけでなく、個性や国際感覚を伸ばす教育をしてほしい」と話す。

(『朝日新聞 平成27年8月20日』より)

問 海外で生活したことは、あなたのどんな「個性」をどのように伸ばしてくれたと思いますか。また、高校生活や将来の仕事にそれをどう生かしたいと思いますか。具体的にまとめなさい。(六〇〇〜八〇〇字 題名などは書かずに一行目から本文を書くこと)